

研究の概要

平成 18,19 年度の校内研究の概要

「よく考え問題解決に取り組む子ども～算数科を通してよりよい学び合いの実現をめざして～」

大田区教育委員会研究奨励校

研究発表会 平成 19 年 11 月 9 日 (金)

★基礎・基本を定着させる

○算数の関心・意欲・態度では、
「聞くこと」「書くこと」「話すこと」

○数学的な考え方

既習事項の活用

自力解決

算数的な表現(テープ図、アレイ図、線分図、面積図、数直線など)

○数量や図形についての表現処理

朝学習→計算問題などの反復練習をする。

家庭学習の習慣化→課題(宿題を出す)を出す。

○数量や図形についての知識・理解

授業以外の取り組み

補習→月 2 回 放課後 30 分

対象：6 年生

朝学習→毎週金曜日(8:25~8:40)

対象：全学年実施

保護者が答え合わせのサポートをしている。

土曜学習教室→年間 7 回 土曜日の午前中

対象：希望者を募集する

地域の学習塾の先生に依頼して指導していただいている。

保護者が答え合わせのサポートをしている。

夏休みの補習→夏季休業中に 5 日以上

1 時間程度

★問題提示を工夫する

子どもたちが、「おもしろそうだ」「やってみよう」と意欲をもって取り組めるよう身近な題材から問題作りをする。

★学び合いの場を設定する

○ハンドサインを決めて、各教室に提示する。

○意思表示のマグネットを活用する。

○単元内容ごとに学習形態を工夫する。

○算数コーナーを設けて、既習事項の活用を生かす。

○各学年の目標を設定する。

★ハンドサイン

- ① 学習の進め方が分かる。
発言する子どもの意思表示になる。
- ② 落ち着いて話す機会が増える。
発言する際のマナーやきまりが校内で統一できる。

★マグネットの活用

- ① 全員が学び合いに参加できる。
- ② 学習内容の確認ができる。
主に考え方の説明を進めていく際に用いる(マグネットには記名)
黄色マグネット→考え方が分かるとき
白色マグネット→わからないとき

★説明ボードの活用

- ① 考え方の整理や分類ができる。
- ② 算数コーナーに説明ボードを残して内容の確認や振り返りに活用できる。

★ノート指導

- ① 学年の状況に応じて、共通ノートを活用する。
- ② 既習事項をノートに記録して、見返せるノート作りをする。
- ③ 学習感想を書く。